



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

編集・発行：情報委員会

2018～19年度 テーマ

語り合おう！そして楽しく豊かなクラブライフを！

臨時総会・例会

日 時：令和元年 5 月 9 日(木) 11:30～13:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：56 名 出席率 86.2%

(会員総数 65 名 欠席 9 名)

本日の案内

池田例会委員長

本日は臨時総会と例会が行われ、その後「サロン閉講式」「特別講話」「さよならパーティー」が開催されることを伝え、配布資料の確認があった。

会食となり、田中理事からハッピーコイン 24 件の披露(4～5 頁掲載)があった。

第 2 回 臨時総会

1. 開 会

池田例会委員長

本年度第 2 回の臨時総会を開催する。

2. 議長選任

恒例により、馬場会長が議長に選任された。

3. 書記 1 名、議事録署名人 2 名選任

議事に入る前に議長から、書記に山口三郎会員、議事録署名人に橋本鋼二会員、根本照代会員がそれぞれ指名された。

4. 議 事

第 1 号議案として 2019～2020 年度役員人事(案)が提示され、理事 10 名、会計監査 2 名が原案通り可決承認された。

5. 議長解任

6. 閉 会

第 283 回 例会

1. 開 会

池田例会委員長

第 283 回例会の開会を告げた。

2. 会長挨拶

馬場会長



皆様こんにちは。

5 月から平成 31 年が令和元年となりました。本例会は令和最初の例会となります。大きな災害には遭遇したものの戦争のない平和な「平成」時代を惜しみつつ、新しい「令和」の時代の到来

を会員の皆様と共に寿ぎたいと存じます。未来への希望と夢を新しい「令和」時代に託し、更には、海外で後を絶たない「テロ」の脅威が「令和」時代には収まって行くことを願ってやみません。

さて、嬉しいことには本日 2 名の新会員をお迎えします。令和時代最初の新会員でもあり、嬉しさも一入であります。更には新しい試みとして“例会見学者” 1 名が参加されています。杉山会員のご友人山野稔様ですが雰囲気をご体感してください。

本日はもう一つ嬉しいことがあります。暫くお休みされていた濱野幸雄会員と古川純香会員がお元気に復帰されたことであります。

2 月にスタートした「生涯学習サロン」は本例会後の閉講式において大団円を迎えます。準備と実行に努力された地域奉仕委員会を中心とする会員各位の努力と熱意に敬意を表すると共に心から感謝申し上げます。

最後に、先程の総会では次年度の理事が決定しました。これから 6 月末まで各委員会においては今期の締めをきっちりと行い、次年度への引き継ぎに万全を期してください。

3. 新会員の紹介

寺山政秀新会員の紹介

岡本 宝蔵

寺山政秀さんの奥さまが当サロンへ参加されており自分の家内と知り合いであったことが縁でお近づき

になり、当クラブの紹介をした次第です。

寺山政秀会員の自己紹介：



このたび会員委員会委員長の岡本様の紹介により、八王子プロバスクラブに入会させて頂きました寺山政秀と申します。よろしく願い申し上げます。八王子に住んで24年になります。

現役時代は約40年、教育の道を歩んでまいりました。最初の15年は千葉県にあります東邦大学付属東邦中高等学校、その後八王子の穎明館中学高等学校に英語科教諭として勤務いたしました。2009年に副校長、2011年に学校長となり、本年3月に退任致しました。変化の激しい時代において、特にグローバル教育の推進に力を注いで参りました。

これから先輩の皆さまについて、ひとつひとつ学ばせていただきたいと思います。ご指導何卒よろしくお願い申し上げます。

土屋三千代新会員の紹介

飯田 富美子

土屋様は八王子市つつじが丘自治会の副会長、総務委員長として何年も活動されており、また元八王子地域住民協議会事務局長として事務一切精力的にこなされています。さらに元八王子地域に於いては「北条氏照まつり」の実行委員として甲冑作りの指導者も行っている地域の活動家です。趣味はテニス、旅行、映画鑑賞、美術館めぐりなど幅広いジャンルで活躍。今後とも仲間の一員としてよろしくお願い致します。

土屋三千代会員の自己紹介：



八王子に昭和45年から住んで早半世紀近くなりました。

娘が中学生になり、私も働く姿を娘に見せたくて銀行の渉外課に所属、パートとして取り組み、定年を迎えました。その後すぐに生

命保険会社の確認業務の八王子担当、一年後に都内23区担当の業務となり、新入パートの教育係も併せて任せられ、同じ中年を教えながら自分自身の勉強にもなりました。

定年退職後にすぐ町会の理事が廻って来て、自治会の副会長(総務部長)を受け6年になりました。

地元の元八王子北条氏照まつりの実行委員としてもパレード部に3年となり、八王子市制100周年八王子城甲冑づくり実行委員の一員として甲冑7領と衣装も手作りで完成させ、八王子城跡の御主殿で市長をはじめ教育委員長、観光協会会長などを前に発表会を開きました。全国都市緑化はちおうじフェアにも甲冑を着て出演しました。

昨年は元八町会自治会連合会での北条氏照まつりに5領の甲冑と長刀隊の甲冑10領と各衣装もやはり手作りしました。まつりを通して小田原城北條五代まつり、寄居町北條まつり、所沢、滝山城といろいろな方々との絆が深く結ばれ、思いも掛けない人の繋がりを通しての人生勉強となりました。

何事も行ってみるにより素晴らしい世界へ導かれるものと信じて、これからの八王子プロバスクラブでの世界を楽しみと期待感いっぱい、皆さんと一緒に学んで行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくご指導くださいませ。

4. パースデーカードの贈呈



5月生まれの会員(写真左から間宮・橋本・永井・有泉の各会員)に池田会員手作りのパースデーカードが馬場会長から贈られました。(敬称略)

5. 幹事報告

寺田 幹事

幹事からの報告は2件です。

・先月もお願いしましたが、各委員会活動報告、同好会活動報告をまだ提出されていない方は5月末日までに寺田へ提出してください。

・毎回の例会次第に記載されてご存知のことと思いますが、休会者は例会2日前までに各委員長へ連絡を。連絡の無い欠席(含むドタキャン)は今後食事代1,000円を頂戴することになります。徴収方法・確認方法は今後検討します。

6. 各委員会報告

(1) 例会委員会 池田委員長

本日の出席者は 56 名、出席率 86.2%でした。

(2) 情報委員会 持田委員長

・プロバス日より 282 号を配布いたしました。今月号は東山会員が編集担当でした。今月は下山会員、山形会員、橋本会員、吉田会員から寄稿を頂きました、ありがとうございました。

・HP への 4 月 1 か月間のアクセス回数は 255 回でした。サロンがあったために多かったようです。

・HP のトップページの変更を 6 月末までに実施する予定です。八王子の春夏秋冬の景色を入れて、模様替えを行います。お宝情報は消去、リンク先は整理して大幅削減の予定です。

(3) 会員委員会 岡本委員長

① 新入会員について

寺山政秀会員と土屋三千代会員が新たに入会され、お二人私たちの仲間が増えました。喜んでお迎えしたいと思います。所属は会員委員会になります。皆さまどうぞ宜しくお願い致します。

② 5 月度の会員状況

新たなお二人を加えて、男性 51 名、女性 14 名 総会員 65 名です。

しばらく、欠席されていましたが濱野幸雄会員、古川純香会員が今月より出席されました。

(4) 研修委員会 有田委員長

① 6 月「卓話」についてのお知らせ

自主学習会「老年研究会」の総仕上げとし特別講演会を計画。講師として桜美林大学の芳賀教授をお招きします。

② 自主学習会

5 月開催予定の「教育問題研究会」は、講師の都合で延期します。

(5) 地域奉仕委員会 一瀬委員長

平成 31 年 2 月 21 日の開講式で始まった第 23 回生涯学習サロンも令和に改元した本日 5 月 9 日の閉講式、さよならパーティーをもって締めくくりとなります。その間会員の皆様には大変なご協力をいただきまして改めて感謝申し上げます。3 週 12 講座 2 特別講話、野外サロンと予定通りサロンを進めるこ

とができました。一方ではサロンも転換期に来ていることを現場に身を置いてひしひしと感じます。高齢化に伴う構造変化にどう対応していくべきか、現在、今回のサロンの総括を進める中で改革の方向性の議論を進めております。伝統あるこの学習サロンの持続可能性を目指して具体策を探っていきたいと考えています。

アンケート用紙をお渡ししています。今後の参考にするため是非ご記入をお願いいたします。

(6) 交流担当 田中担当理事

他クラブとの交流の一環として、4 月 19 日に当クラブの馬場会長、飯田副会長 2 人が「埼玉浮き城プロバスクラブ」を訪問、歓待を受けた。今後の活動の参考にすべき点等理事会で報告あり。

(7) 八王子「宇宙の学校」後援会 会長 杉山友一

「宇宙の学校」平成 30 年度レポートを皆さまへ配布いたしました。平成 30 年度もお陰様で予定通りに終了することができました。特別協賛会員、維持会員、そしてプロバスの皆さまの支えを頂き、事業運営ができております。今後とも皆さまのご支援をお願い申し上げます。

なお、八王子「宇宙の学校」は今年で 9 年目ですが、来年 10 周年が大きな節目になると考えております。後援会活動のあり方や人的労力の面でも過重な負担にならないような、プロバスらしい展望を開いていきたいと考えております。是非お知恵をお貸しください。

(8) 宇宙の学校 下山 P J リーダー

皆様のお手元に、2 種の資料を入れました。

① 「宇宙の学校」今年度の募集チラシ

② 八王子「宇宙の学校」協力参加申込書です。

今年は八王子学園での開催があり、この会場のボランティアの生徒さんの補助をしっかりしたいので、この会場に経験豊かなプロバスクラブ会員の多くの応援を期待しています。また 6 月からスタートですので、本日中にアンケートを提出いただくようお願いいたします。下田、高取、下山が集めます。

7. 同好会活動報告

・古典芸能鑑賞同好会 池田会員

歌舞伎鑑賞教室「菅原伝授手習鑑」「棒しばり」

7 月 12 日(金)午後 6 時半から 国立劇場 3,400 円

8. その他

・健康フェスタ 報告

5月19日に2019健康フェスタがエスフォルタアリーナ八王子で開催された。石森市長の挨拶で開会式が始まり、多くの来賓とともに、47団体が参加し例年同様盛大に開催された。プロバスクラブは総合受付を担当した。(記：岡本宝蔵)



9. プロバス賛歌斉唱

10. 閉会

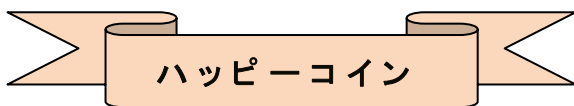
飯田副会長



本日は2名の新会員寺山様と土屋様をお迎えして大変うれしく思います。これからは同好会等を通じて素敵なプロバスライフをエンジョイしてください。

本日は例会の後、サロンの閉講式と特別講話、さよならパーティーがあります。ご担当の方には最後までしっかりと役割を果たしていただきます様にお願い致します。

6月の例会は16時からです。間違いないようお願い致します。



◆「生涯学習サロン」は本日、閉講式を迎えます。地域奉仕委員会・受付チーム、講師の皆様、本当にありがとうございました。馬場 征彦

◆第23回の野外サロンは心配していた雨も止み、曇りのち晴れとなり、大勢の参加を得て楽しく充実した一日となった。協力ありがとうございました。岩島 寛

◆令和への改元、初めてのプロバスクラブ例会、おめでとうございます。吉田 信夫

◆令和元年の初月(5月)の例会に新入会員の寺山政秀さんと土屋三千代さんを迎えた事は、プロバスにとってもお二人にとっても目出度いことであり、お二人を歓迎します。寺田 昌章

◆4月18,19日福島県と山形県の桜見物をしてきました。福島では日本三大桜の1つ三春の滝桜(二日後に夕方のTVニュースで放映)、秋山庄太郎さんが福島に桃源郷ありと好んで訪れた花見山公園が印象的でした。どこも満開で本当にラッキーでした。

寺田 昌章

◆85歳になります。ペースメーカーに助けられ、動けるようになりました。週一度のリハビリを続け半年で4キロ減量し、医者先生にほめられました。

橋本 鋼二

◆学習サロンも最終日、皆さまの協力に感謝。また一歳年を取りました。健康に感謝。永井 昌平

◆「宇宙の学校」の会場になりました八王子学園、受け入れ準備に教職員、生徒共に入りました。気持ちよく多くの小学生が八王子学園の門をくぐれるようがんばります。応援をよろしくお願いします。

塚本 吉紀

◆この度、寺山政秀様と土屋三千代様のお二人が入会、誠にありがとうございます。会員の皆様にかかれましては温かくお見守り下さり、末永くご支援賜ります様よろしく申し上げます。

岡本 宝蔵

◆連休前半ガムに旅行に行き、横井様の堅穴をのぞいてきました。戦前の男のいきがいに感銘しました。

吉田 信夫

◆昨年12月末から入院して、やっと出て来ました。これからもよろしく。濱野 幸雄

◆生涯学習サロンもいよいよ本日で無事終了となります。皆さまお疲れさまでした。そして又、この5月は令和のはじまりです。共にHAPPY!!

持田 律三

◆いよいよ令和の時代の始まり。平成と同じように戦争のない平和な時代でありますように深く願っています。土井 俊玄

◆本日、八王子「宇宙の学校」後援会、平成30年度の決算報告をさせていただきます。杉山 友一

◆「われ住まふ高尾山望める小比企野辺 花鳥美し人みな優し」。本籍を東京都区内から八王子市に変更しました。最早、「旅の人」に非ず、です。

山形 忠顯

◆「落伍者をつくらない学校教育のために」の第1弾として檜原小学校で地図学習がはじまりました。第1回目は1年生から6年生まで27名が参加。11名が47都道府県名を白地図に書きこめるようになりました。校長先生も採点に加わっていただき、上々のスタートです。

深谷 正徳

◆天皇の即位の際にのみ開帳される京都長楽寺の秘仏准胝観音像を拝観することができました。

内山 雅之

◆学習サロンも今日で閉講式となります。関係者の方々とりわけ地域奉仕委員の方々に感謝申し上げます。今日は2名の新しい会員を迎えます。早く雰囲気になれてプロバスライフを楽しんでください。

飯田 富美子

◆令和の時代になって初めてのうれしいカードをいただいて幸せです。池田さんいつもありがとうございます。

有泉 裕子

◆昨日俳句会に参加させて頂きました。

「指で数える五・七・五」 野口 浩平

◆5月より元号は令和と改元、これを機に私は協力と忍耐と育成の3本の矢を備えて、気を新たにニッポンのため前進。おお—HAPPY—

荻島 靖久

◆野外サロン前日の雨でヤキモキ、バスの中からスカイツリーがかすんで上半分見えずアア。ところがレストランでランチ中に青空も！！ハッピー

一瀬 明

◆本年度の生涯学習サロン 本日の閉講式、さよならパーティーをもって締めくくりとなります。皆様のご支援ご協力誠にありがとうございました。

一瀬 明

◆「第23回生涯学習サロン」も本日が最終日、地域奉仕委員会の皆さま始めご尽力頂いた皆様感謝です。有難うございました。

田中 信昭

渋谷学兄を悼む

杉山 友一

「おもしろうて やがて悲しき 鶺鴒かな」松尾芭蕉の一句がしみじみと思ひ浮かぶ。平成の世に幕が下ろされ令和の新元号に変わった途端、昭和の時代は一気に遠のいた気がしてならない。そんな折も折、我がクラブから、骨太な筋金入りの昭和人がまた一人、重い歴史を背負ったままに西方浄土へと旅立っていった。その人の名は渋谷文雄さん。

思えば大兄の人生は、昭和初期に日本の国威の象徴として描かれた満州国に青雲の志を託したところから色濃く特徴づけられた。やがてこと志と違って太平洋戦争で日本の戦況が不利になると現地の様子が一変してしまう。彼の地でその後の幾多の艱難辛苦はクラブの学習サロンなどでも折に触れ語られてきたところだ。大兄の祖国への帰還は終戦から漸く8年後の昭和28年の秋であるが、その後の全ての人生の展開、成長への道のりは、この大陸での貴重な体験、一念岩をも通す臥薪嘗胆こそが大きな礎となっていたことを我々は理解している。折しも、大兄の帰国後の我が国は、戦後の経済復興へ向かって邁進中で、昭和30年には神武景気、35年には岩戸景気が到来する中で、立川スプリング(株)(現タチエス)(当時のプリンス自動車の協力会社、後に日産が吸収合併)の創業家の知遇を得て自動車産業界へと転身された。人生の綾とは摩訶不思議なものである。

その後はまさに我が国の自動車産業の発展と軌を一にして成長路線をひた走り、自己実現の歩みを重ねながら会社の成功物語を紡ぎ通して来た。そして、やがて時を経て幾星霜、身を賭して築き上げてきた大仕事もようやく一区切りの時を迎えて、古希を目前にして後進に道を託された。その後の渋谷相談役当時、私は株式会社タチエスの社外監査役を務めており、そんな立場から、実業引退後は八王子プロバスクラブへどうぞとお薦めした経緯があるのだ。この誘いは大成功で、途中最愛の奥様を亡くすというご不幸にも耐えながら、大兄は今日まで会員として在籍21年、特に後半の8年間は「俳句同好会」の長老として、日々是好日を実践してこられた。去る5月17日の告別式の折には、ご遺族との会話の中で、故人が晩年過ごした充実したプロバスライフのこと、特に俳句同好会に感謝の言葉が重ねられた。

光陰矢の如し、昭和と平成の時代を丸々紡ぎ重ねた大兄の人生、波乱の青春時代の思いを人生哲学とし、「人間本来無一物」を座右の銘として二つの時代を駆け抜けた戦中男子の命への執念、戦い終えて日が暮れて、今その哀しみは平安の中に在る。自らの体験を通して「戦争だけは絶対にやってはならぬ、新憲法9条は平和の象徴であり日本の誇りである、決して粗末にしてはならない」と言い続けた筋金入りの昭和人渋谷文雄兄に、永遠のお別れの今、更なる尊敬、敬愛の念を込めて哀悼の誠を捧げたいと思う。どうか安らかに眠りください。 合掌

句友 渋谷文雄さんを偲んで

俳句同好会 河合和郎

文雄さんが逝かれた。俳句をこよなく愛し、俳句に余生の全ての情熱を注がれた文雄さんが永遠の旅路に赴かれた。文雄さんが月例の句会に参加されたのは、2月13日が最後となった。

亡くなる3日前の5月8日の句会には作品一句が届けられた。俳句づくりに命の最期を昇華させるような執念の一句であった。

プロバスクラブに俳句同好会が発足したのは平成23年12月のことであった。この呼びかけ人が文雄さんであり、その後のメンバーの勧誘や会の運営には常に心を砕いておられた。句会の中心にはいつも文雄さんが居られた。人生の機微を知り尽くした文雄さんの鑑賞眼には、句友をたじたじとさせる迫力があつた。

俳句同好会が8年間にわたり89回もの定例句会を重ね、この間に4回の吟行会を実施したのも、文雄さんの強い希望によるものだった。文雄さんは享年89歳、文雄さんが最後に投句された句会も89回目の開催であった。

俳句会が発足して3年目に文雄さんから「句集」を作ろうとの提案があり、平成26年3月には自選句集「夕やけ」の第1号が発刊された。

今年3月には、句集「夕やけ」第六号が発刊され病床にあつた文雄さんには、大いに喜んでいただけた。

ここで通算6巻に及ぶ句集に納められた文雄さんの作品を掲げ、文雄さんを偲ぶ縁としたい。日々の営みの中から生まれた、味わい深い作品の数々を。

〈自在な句想〉

高々と熊手が歩く酉の市
茜空秋刀魚一匹酒二合
冬の川微動だにせず驚一羽
腕捲りしてみただけの暮れの朝
藁囲い緋牡丹艶と浅草寺
新緑が山駈け上る西穂高
落葉踏む焚火の歌碑のある街の
白髪に赤い襟巻人恋し

〈妻そして家族へ〉

老いてなほ鬼灯鳴らす妻ありき
初詣妻の位牌と浅草寺
孫の子を肩車して遠花火
桜咲く重くはないかランドセル

〈平和を希求して〉

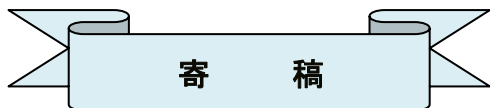
暮れ八日民死なしめし戦の日
酷暑の日九条語りし友逝きぬ
官と軍民を捨て置き逃げし夏

〈闘病の日々を〉

胸を裂き命繋いで冬に入る
医師の言ふ余命一年秋の空
血まみれの癌を切り取り五月尽
秋深し命落ち行く砂時計
夏終日われ病床に伏せ候
癌の奴骨に浸み入り桜散る

文雄さんは、平成29年に発刊された句集第3号の後書きに、「入院中終日ベッドにあるは退屈を超えて苦痛。駄句をひねくり回す事半日、苦痛はかなり和らいだ。入院患者に俳句療法は効果あり……」と記されている。俳句づくりに勤しむ日々が心の支えになったのであれば、句友の一人としてこんな嬉しいことはない。

葬送の折り、楽しかった句会の思い出の縁にと句集第六号を棺に納めた。ここに文雄さんの永遠のやすらぎを願い、追悼の拙文を捧げる。



寄稿

古典芸能鑑賞同好会報告

杉山 友一



久々の古典芸能鑑賞同好会への参加は、4月28日国立能楽堂での「能」鑑賞となった。今回の指定席は奮発して舞台真正面6列の中心位置で気分爽快である。

今日の演目中メインの狙いは、後に歌舞伎十八番に座る「勸進帳」の淵源となった「安宅」である。作品の「安宅」は室町時代に義経記などから生まれたとされ、古今の名作としてつとに有名な作品である。ご存知のように兄頼朝と不仲になった源義経一行の奥州への逃避行がテーマの物語だが、山伏姿に変身した一行の先導役を務める弁慶が、四間四方の能舞台上で演じるその態様は文字通り圧巻で、安宅の関で召使に変装させた義経を何とか庇い通そうとして偽りの勸進帳を読み上げるくだりの一部始終、そしてようやく関を通過できると思ったときに剛力姿の義経を咎める関守の富樫某の目前で、ぼやぼやしているお主が悪いと容赦なく主君義経を打擲するその緊迫した場面など、昭和生まれの日本人にはたまらない浪花節である。

終盤に弁慶が舞う勇壮な男舞いが示す「動」と「静」の凜とした空気感、これまた能固有の趣として心地よく腑に落ちる。解説書に依れば、能が作品を通して描こうとしているのは「ある状況下におかれた人間が、危機を乗り越えるために行う意志力の造形」とのことである。むべなるかな、歌舞伎十八番の「勸進帳」にはエンターテインメント性を強く感じるのに対して、あくまでも時代の深奥を抉ろうとする能の原点は「祈り」にあると言われる。そんな生真面目すぎるというか、能固有の立ち位置がよくわかる気がしてくるのだ。

第一部90分間の後は休憩を挟んで、舞台は狂言に転換し、演目は夫婦の情愛を描いたしっとりした一曲「箕被」(みかづき) (記事省略) が演じられた。いつもの事ながら能舞台二曲の間を受け持つ狂言の舞

台は一服の清涼剤である。主演者(シテ)は米寿を迎えた人間国宝の野村万作である。(上演時間25分)

続いては、地謡の謡によって舞う仕舞の鑑賞3曲(上演時間15分)が挟まって、最後の舞台は咲き匂う紅白の牡丹の花に絡めて天下泰平の目出度さを、勇壮華麗な大獅子の舞を中心に据えて演出された一曲「石橋」(しゃっきょう) (中国清涼山の麓に位置する由緒ある石橋を渡ろうとする法師の心の去就を綴る物語) (上演時間65分) で大団円となった。

ときに、今日も又いつもの事ながら一連の舞台を支える地謡の力強さ、底力には胸を打たれた。どこまでも透通す笛の音の輝き、トン・パン、トン・パンと響きを重ねる小鼓のリズム、パンと大きく跳ね返す大鼓の響き、和楽のハーモニーは100人編成の洋楽のオーケストラにも引けを取らない。

さてさて、すべての演目を通して、能舞台から観客に届く心波は、大きくタイムスリップして全てが非日常で極上のエスプリ、心の栄養剤となりえた次第。

末筆ながら、お世話頂いた内山代表には重ねてお礼を申し上げたい。全ての演目について、痒い所に手が届くほどの詳細なガイダンスを自前で制作されご提供頂いた。おかげさまで十二分に堪能させていただきました。感謝。

オペラ オペラ ああ懐かしき(その2)

山形 忠顯

1970年、東京芸術大学オペラ第16回定期公演の「修禅寺物語」は、芸大オペラ始まって以来の邦人創作オペラとして注目されていた。

岡本綺堂原作「修禅寺物語」の戯曲を、清水脩氏は一言一句変えることなく作曲して畢生の傑作をつくり上げた。

私は「二代将軍源頼家役」を務めることになり、多々研修に励んだ。芸大能楽研究科の観世流浅見重信教授に仕舞と謡、そして観世栄夫・武智鉄二両師に能と狂言の朗誦法・所作の稽古をつけてもらい、折よく歌舞伎座公演に「修禅寺物語」が懸けられていたので、1ヵ月余毎日通って研究した。努力の甲斐あってオペラ公演本番の「頼家」の演唱は我乍ら納得でき、初演(1959年、関西オペラ・関響)の頼家を演唱さ



れた柴田睦陸師から、「伝統を踏まえ、お前の独創性もあり、宜しい！」と講評された。作曲の清水脩氏にも非常に喜んで頂いた。

1972年、藤原歌劇団オペラ「蝶々夫人」公演で、ピンカートン役の「スタンド・イン(カヴァーとも言う)」を

務めることになった。その頃は、私の演唱技能も可成り上達しており、本公演のピンカートン役を演唱するR・チオーニ氏の来日の直前までの「スタンド・イン」を藤原義江氏（世界に活躍したテノール・リリコ・レジェロ/1934年、藤原歌劇団創立・団長、1944～45年を除き、1972年までオペラ制作公演に尽力）から依頼された。

タイトル・ロールはかの砂原美智子先輩(1944年、東京音楽学校卒)で、イスラエル国立歌劇場専属のプリマ・ソプラノとしてのP・ドミンゴと協演するなど、世界歌劇界で評価されていた。砂原氏は「ミチコ・デル・モナカ」と斯界で渾名される程のソプラノ・リリコ・スピントで、歌声の質・量・技は無論、所作・演技も申し分なく、背中で見せる演技の美しさには惚れ惚れした。

やがて、全国を揺るがした大学紛争の嵐を経て、私は公職に就くことになった。30年余にわたって幼・小・中・高等学校教員の養成、現職学校教員の再研修指導、大学・大学院教員の養成、そして、地域音楽文化の興隆・発展支援等に関わり、何とか定年退官を迎えることができた。

この間、只管、オペラ制作現場で経験し修得した様々のノウハウを機軸に仕事してきたと言える。

オペラ、音楽のパフォーマンスはその時その場で評価できるものであるが、教育の仕事は人間個々人に関わることで相応の時を経なければ判るものではない。私の所業の如何はペンディングであり、百代に評価を待つ他ないと思う。

俳句同好会便り

私の一句〈五月の句会から〉

河合 和郎

俳句同好会の生みの親だった文雄さんが逝かれた。同好会の大黒柱だった。文雄さんの居ない句会は淋しいが、残された私たちが頑張るしかない。

髭を剃るみにくきあごを付き出しぬ 渋谷 文雄

亡くなる三日前の絶筆の一句。最早俳句の域を超えた作者の必死さが胸を打つ。句はもう届かない。

海鞘届く陸前高田の弟子愛し 山形 忠顯

愛弟子から好物の海鞘が届く。羨ましいような師弟愛の一句。良いお弟子さんを持たれて幸せ。

潮干狩貝と競り合ふ人の数 東山 榮

俳諧味抜群。潮干狩りで賑わう海辺の様子を詠んで、作者が得意とする洒落たユーモアがいい。

浮き雲の影移りゆく麦の秋 矢島 一雄

写生句のお手本のような一句。景が大きく句のリズムもいい。最近麦畑が見られなくて淋しい。

離れてはまた寄り添ふて春の雲 池田ときえ

春の空に浮かぶ雲が恋人同士のように付いたり離れたり。作者は青春時代の我が姿を映して……。

薪能つづみ一打ち時止る 田中 信昭

静寂な舞台に鼓の一打ち。息を呑むような瞬間を詠む。舞台の緊迫感を伝える中七の措辞がいい。

朱夏の旅リアスでつなぐ風さやか 飯田富美子

東日本大震災から早くも8年が。途絶していた三陸にリアス線が復旧した。応援の夏の旅の一景。

里山の余花令和へと咲き繋ぐ 馬場 征彦

大きな時代の変わり目を余花に託して詠む。今この時しか詠めない一句。下五の措辞が上手い表現。

新緑のにわか庭師の腕だめし 野口 浩平

初参加。亡き文雄さんの勧めとか。是非俳句に心を繋ないで行って欲しい。中七の措辞が面白い。

卯の花の咲くやけぶるや里小暮 河合 和郎

宵闇が迫る山里に卯の花が消え入りそうに咲いている。感動し共鳴する心を持ち続けたい。

編集後記：今回は、尊敬する先輩（渋谷大兄）の追悼文を掲載することとなり、寂しい編集作業でしたが、新たに会員2名が誕生し、明るい曙光も射しました。皆で心あわせ、令和新時代へ希望のスタートをと、願っています。 佐々木秀勝